

好評だった大阪城と真田丸の講演

第25回総会・懇親会

上田高等学校関西同窓会の第25回総会・懇親会は、平成27年9月5日(土)、大阪コロナホテルで開催され、会員・来賓の47名が参加しました。午前10時からの総会に引き続き講演会は、大阪城天守閣主任学芸員の跡部先生から「大阪の陣と真田丸」と題してお話されました。引き続き行なわれた懇親会は、44期から104期までの参加者が交流を深めました。

企画委員長に尾崎 忍さん(76期)

総会は石沢誠司会長(60期)の挨拶に続き、活動報告・次年度活動計画案、会計報告・次年度予算案を承認。また、役員人事案では企画委員長に尾崎忍さん(76期)、広報委員長に土屋俊夫さん(83期)の就任が承認されました。(役員・学年幹事については次ページの表をご覧ください)

引き続き行われた講演会で跡部先生は、秀吉が築城した大阪城の特徴、および大阪の陣において出丸として築かれた真田丸と、そこでの戦いについて分かり易くお話しされ、参加者から好評でした。

講演をする跡部先生



石沢会長あいさつ
大河ドラマ「真田丸」に合わせて関連する講演会を企画したところ、昨年より多くの方にご参加いただきました。関西同窓会にとって「真田丸」は、ふるさとの歴史と大阪の歴史を同時に学べる絶好の機会です。テレビ放映の始まる来年も関連企画を行ない、同窓会運営を盛り上げたいと思います。

上田高等学校
関西同窓会報

第42号

2016年(平成28年)
1月17日(日曜日)

発行・編集
上田高等学校関西同窓会

第9回文化サロン

「骨董よもやま噺 ～本物と偽物の見分け方～」

3月6日(日) ホテルアウイーナ大阪

文化サロンも、皆様方のご協力により9回目を迎えます。今回は、「骨董よもやま噺～本物と偽物の見分け方～」と題して、古美術高橋彩美堂の高橋一博氏にお話をさせていただきます。高橋氏の先代(父親)は骨董商でしたが、高校卒業後、他店の骨董商に丁稚奉公し研鑽を積まれてから家業を継いでおられます。また、幼少のころより、漫才落語など話芸に興味を持ち、「伝統を守るなにわの会」十周年記念イベントで講演し、落語家の桂米二氏と「噺家修行と丁稚奉公」として対談を行っています。骨董品を見たり、買ったりしたとき、真贋が気になるころですが、「骨董の目利き」になるにはどうすればよいのか等、骨董屋ならではの興味あるお話が伺えるものと思います。

【日時】 2016年3月6日(日) 午後1時～4時
【場所】 ホテルアウイーナ大阪 206号室
〒543-0031 大阪市天王寺区石ヶ辻町19番12号
TEL 06-6772-1441

【交通案内】 近鉄上本町駅14番出口から徒歩3分

- ◆テーマ「骨董よもやま噺～本物と偽物の見分け方～」
- ◆時間 午後1時～3時(途中休憩) 話題提供
午後3時～4時 自由討論と懇親
- ◆話題提供講師 古美術高橋彩美堂 高橋一博氏
1950年大阪市生まれ。高校卒業後、古美術商平野古陶軒に丁稚奉公。1973年に退店し先代の経営する高橋香美堂に籍を置く。1981年先代他界により高橋彩美堂開業。

【会費】 1,000円
(会場費とコーヒー代を含む。当日頂きます)

【会場の定員】 25名(申込み順)

【申込み先】
〒651-1212 神戸市北区筑紫丘8-6-9 隅田修一郎

TEL/FAX 078-583-5775 e-mail suda.shuichiro@kki.kobelco.com

2月27日(土)までに上記宛に郵送、FAX、メールの何れかでお申し込み下さい。



【会場案内図】

平成26年度活動経過報告

平成 26 年

▶9月6日(土)第24回関西同窓会総会・懇親会を開催。会員33名・来賓6名。(大阪コロナホテル)講演会「中小企業が社会を変える」講師:京都中小企業家同友会 荻原 靖さん(74期)
 ▶9月18日(木)母校1年生対象社会講座への協力国際学/竹内俊隆さん(68期) 理学/松原 隆彦さん(83期)
 ▶10月4日(土)上田高校同窓会会員大会に石沢会長が出席。出席者 320名
 ▶11月15日(土)中南信支部第21回総会に尾崎副会計長が出席。出席者 60名
 ▶11月15日(土)文化交流会。出席者 8名
 『平安の色彩がよみがえった平等院の見学と宇治川畔の散策』

平成 27 年

▶1月17日(土)関西同窓会報第40号発行。会報を電子化しメールのある会員にPDFファイルを送信して会報保管場所のアドレスを連絡した。メールのない会員および紙の会報を希望する会員にはコピーした会報を送付した。本部および他支部には、PDFファイルを送信した。
 ▶1月24日(土)第1回役員会(TKPガーデンシティ東梅田)。出席者7名。
 ▶3月7日(土)第8回文化サロンを実施 参加者:20名。会場:大阪産業創造館6F 会議室D 13:00~16:30 テーマ:「井原西鶴と大阪文化」講師:山下孝夫氏
 ▶4月11日(土)第2回役員会(マツラ喫茶店)。出席者5名。
 ▶6月27日(土)関東同窓会第54回総会に荻原会計長が出席。出席者272名。
 ▶7月17日(金)関西同窓会報第41号発行。発行部数は500部、関西同窓会会員460部、事務局用40部。本部・関東同窓会・北海道同窓会・各支部へはPDFファイルを送付

平成 27 年度活動計画

▶平成27年9月5日(土)に第25回総会・懇親会を開催する。会場:大阪コロナホテル
 総会:2階215号室 懇親会:200D号室
 講演「大坂の陣と真田丸」講師:大阪城天守閣主任学芸員 跡部 信先生
 ▶広報委員会編集による関西同窓会報を年2回(1月17日、7月17日)発行する。1月号については電子化し、メールのある会員にPDFファイルを送信する。メールのない会員および紙の会報を希望する会員にはコピーした会報を送付する。(小松広報委員、石沢会長)
 ▶文化委員会主催による文化事業を年2回開催し、会員相互の交流を促進する。
 ①秋の文化交流会 平成27年10月31日(土) 9:50 大阪城大手門前集合(武舎文化委員長企画)「大坂の陣400年・真田丸関連史跡めぐり」
 ②第9回文化サロン 平成28年3月6日(日) 13:00~16:00(阿部副会長企画)テーマ「骨董よもやま噺 -本物と偽物の見分け方-」講師:高橋一博氏(古美術 高橋彩美堂 当主) 会場:ホテルアウイーナ大阪
 ▶上田高校同窓会本部会員大会をはじめ、関東同窓会総会、中南信支部総会などに代表が出席し、交流を深める。
 ▶母校1年生対象社会講座への協力
 日時:平成27年9月17日(木) 工学/内海裕一さん(75期) 理学/松原隆彦さん(83期)
 ▶FaceBookなどのIT技術により会員交流の場づくりの拡充を行う。(土屋広報委員長他)
 ▶上田高等学校の生徒が文化・スポーツなどの分野において、近畿地区で活躍する場合は応援する。

上田高等学校関西同窓会 役員・幹事

会 長	石沢 誠司	60期		
副 会 長	阿部百合子	62期	竹内 俊隆	68期
幹 事 長	隅田修一郎	64期		
副 幹 事 長	金澤 信男	67期		
会 計 長	荻原 靖	74期		
副 会 計 長	尾崎 忍	76期		
監 事	清水 正博	67期		
顧 問	佐原 謙一	62期		
企画委員会	委員長 尾崎 忍	76期(兼)		
	隅田修一郎	64期	金澤 信男	67期(兼)
				上記役員全員
広報委員会	委員長 土屋 俊夫	83期	小松 秀雄	67期
文化委員会	委員長 武舎 一夫	73期	隅田修一郎	64期(兼)
学年幹事	保屋野文男	43期	小泉 孝雄	49期
	翠川 健彦	51期	中村 啓輔	52期
	清水 克正	54期	若林 忠之	55期
	中嶋 巖	57期	白井 彰彦	58期
	山本 努	60期	森田 尚文	61期
	丸山 文夫	64期	恩田 隆	65期
	知野 武文	68期	伊藤 秀一	70期
	武舎 一夫	73期	荻原 靖	74期
	戸田 有一	79期	唐沢 佳彦	81期
	近江 裕之	85期	高橋 路子	88期
	高寺 祐佳	105期		
			半田 仁志	50期
			荒井 正自	53期
			大野 せき子	56期
			伊倉 邦人	59期
			黒岩 屹	62期
			金澤 信男	67期
			中村 智子	72期
			尾崎 忍	76期
			土屋 俊夫	83期
			和田 葉子	104期

平成26年度 会計報告(単位:円)

収入の部		支出の部	
前期繰越	319,013	総会費用	277,649
総会費収入	284,000	会報費	306,282
年会費	201,000	通信費	0
特別年会費	21,000	渉外費	95,580
雑収入	106,520	事務費	14,742
利息収入	62	雑費	19,252
会報電子化対策費本部負担金	100,000	予備費	49,788
次期総会参加費前納金	78,000	次期総会参加費繰越分	78,000
		次期繰越	268,302
合 計	1,109,595	合 計	1,109,595

財産目録 (平成27年8月29日現在)

普通預金	39,170
郵便振替	307,132
合計残高	346,302

平成27年度予算 期間(平成27年8月30日~平成28年8月29日)(単位:円)

科 目	収 入		
	27年度予算	26年度実績	実績対比
前期繰越金	268,302	319,013	84.1%
総会費収入	300,000	284,000	105.6%
年会費	270,000	201,000	134.3%
特別年会費	30,000	21,000	142.9%
雑収入	100,000	106,520	93.9%
利息収入	30	62	48.4%
会報電子化対策費本部負担金	100,000	100,000	100.0%
次期総会参加費前納金	120,000	78,000	153.8%
合 計	1,188,332	1,109,595	107.1%

会費納入にご協力をお願いします

会費未納の方が納入される場合は、過去に遡る必要はありません。納入時点の会計年度から結構です。例会にも気軽にご参加ください。

【会費納入方法の概要】

- ① 年会費 = 1人2千円
- ② 特別会費 = 1口5千円以上。ご支援いただける方はよろしくお願致します。
- ③ 振込方法1 = コピー会報送付の方は、同封の郵便振込用紙をご利用ください。
- ④ 振込方法2 = 会報メール送信の方は、振込票を同封する7月発行号の時結構です。今回お支払いいただく場合は、お近くの郵便局の郵便振込用紙をご使用ください。口座番号は、00970=2=13971 加入者名「上田高等学校関西同窓会」です。(振込料金がかかりますのでご了承下さい)

科 目	支 出		
	27年度予算	26年度実績	実績対比
総会費用	300,000	277,649	108.1%
会報費	300,000	306,282	97.9%
通信費	2,000	0	
渉外費	110,000	95,580	115.1%
事務費	15,000	14,742	101.8%
雑費	20,000	19,252	103.9%
予備費	50,000	49,788	100.4%
次期総会参加費繰越分	120,000	78,000	153.8%
次期繰越金	271,332	268,302	101.1%
合 計	1,188,332	1,109,595	

懇親会式次第

- ◆司会 金澤信男さん(67期) 土屋俊夫さん(83期)
- ◆開宴の辞 副会長 竹内俊隆さん(68期)
- ◆来賓挨拶 上田高等学校校長 内堀繁利さん(74期) 同窓会本部副理事長 金子元昭さん(68期)
- ◆乾杯 荻原俊男さん(60期)
- ◆関東同窓会・各支部来賓挨拶 関東同窓会副会長 小山平六さん(62期) 中南信支部副支部長 武村洋治さん(58期)
- ◆母校近況 上田高校教諭 中村隆幸さん(76期)
- ◆会員スピーチ
- ◆閉会の辞・万歳三唱 副会長 竹内俊隆さん(68期)

課題を解決できる力を もつ生徒に

74期 内堀繁利学長
4月から校長になりました。74期の内堀です。関西同窓会総会の皆様には、母校の社会講座へ毎年講師を紹介していただき、また、4月に大阪大学で開催された国際公共政策カンファレンスに参加した4名の生徒をご指導いただきます。お世話になっております。

上田高校では、本年度からSGH(スーパーグローバル・ハイスクール)の指定を受けました。生徒が自らテーマを選んで調査研究・報告を行ない、課題を解決できる力を、つ人物が輩出することを目指しています。

さて話は変わりますが、昭和32年に上田高校が初めて甲子園に出場しました。また、昭和62年には二回目の甲子園出場を果

変貌する母校の周辺

76期 中村隆幸教諭

上田城南にあった日本たばこ産業上田工場の跡地には平成23年に大型ショッピングセンターができています。また、それに隣接してサントミューゼ(上田市交流文化芸術センター・上田市立美術館)が、平成26年に開館しました。そのため上田城公園にあった山本鼎記念館はサントミューゼの市立美術館へ移りました。上田の一中は、15年ほど前に国分の高台に移転しましたが、上田高校の校庭の北にある二中のグラウンドに現在、二中の校舎が建設中です。完成すると、前の校舎を取り壊してそがグラウンドになるそうです。上田高校の周辺も変貌しています。

身近に感じた真田丸

60期 荻原俊男さん

私は大阪に出てきてから50年たちました。来年は一年間大河ドラマ「真田丸」を見なければならぬので、夫婦そろって本日の講演会を聞きにきました。本日の講演会で真田丸の空堀が、今の空堀商店街の通りの位置にあったと聞いて、あの辺で活躍したのかと思ひ、身近に感じました。また、真田幸村が最後に亡くなった安居神社は、私が勤めていた府立病院のすぐ近くです。私も50年前に上田から出てきて幸村と

関西同窓会懇親会での挨拶から

同じく、この大阪で一生を終えるのだなとしみじみ感じました。(笑)

(乾杯挨拶で)

戦争が始まった年に入学し敗戦の年に卒業

44-4期 北嶋省吾さん

私は丁度、敗戦のときの卒業です。いま86歳になりました。44-4期は敗戦の年ですが、旧制上田中学に入学したのは戦争が始まった年でした。思い出しますと博物館の教室で横田という先生が担当する授業を受けていたときに、「パールハーバーの攻撃があった」というので、生徒が皆立ち上がって手をたたいたのを覚えております。それを思い出すと、今昔夢の如しです。

旧制最後の世代

44-4期 田中茂利さん

旧制上田中学時代は軍需工場へ行って旋盤を回して、あとで聞いたら役に立たなかった飛行機を作っていました。昭和20年4月に4年生で卒業しました。旧制中学は5年制でしたから、1年短縮して卒業したのです。卒業後、海軍兵学校という海軍将校を育てる学校に行きましたが、20年8月に敗戦。そこから放り出されました。私の人生もこれで終わつたんだと思っていたのですが、1、2年してから「我々はまだ若いからこれから人生をやらなければいけない」

と思います、勉強をし直して旧制高校の最後に入りまして、それから旧制の京都大学に入りまして卒業したら新制になっていまして。だから私たちの年代は制度の最後の最後の年代です。

世界にチャレンジしてほしい

64期 宮坂昌之さん

私は一卵性双生児でして、私の名前は昌之、弟は信之で、真田昌幸と信之親子の名に似ています(笑)。大学は京大ですが、その後阪大に縁があり、丁度、荻原先生(60期)が来られたころ、阪大の医学部に呼ばれ、そのままずっと在職し4年前に退職しました。その後、特任教授ということで国際的リーダーを育成するプログラムを担当しております。

関西に住んで10年

104期 岩下淳美さん

大学ときから京都にいて卒業しても京都で働いてますので関西に住んで、丁度10年になりました。KDDIの子会社で働いています。年に二回ほど家に帰りますが、私の同級生は初めての部下を持つたり、起業を考えたりとか、次のステップに進もうとする人が多い年頃です。今回、同窓会に参加させていただき、先輩方の経験などのお話を伺い参考になりました。今後ともぜひ参加させていただきたいと思ひます。

リスペクトされている幸村

84期 松本優樹さん

大阪の天満橋に住んでいます。大阪に来てまだ2年半です。実は東京に妻がいます。単身赴任で大阪にいます。104



第25回総会
講演会

大坂の陣と真田丸

大阪城天守閣主任学芸員

跡部信先生のお話から

豊臣家と徳川家という二大権力の最終決着戦となり、戦国時代最後の大合戦となったのが「大坂の陣」です。

慶長19年(1614)10月12日には「大坂冬の陣」、翌20年5月には「大坂夏の陣」が起こりました。大坂冬の陣では上田の武将である真田幸村(信繁)が大坂城の出丸として真田丸を築き、徳川方と激闘を繰り広げたことが知られています。本日は、「大坂の陣と真田丸」のテーマでお話させていただきます。

ただくわけですが、真田丸を語る前提として、まず大坂城について簡単に触れさせていただきます。

難攻不落の大坂城

豊臣秀吉が上町台地の北端で大坂城の建設に着手したのは天正11年(1583)9月、これは織田信長が本能寺の変で横死した翌年です。約1年半で本丸が完成しました。次いで天正

14年2月から本丸をかこむ二ノ丸の築造がはじまり、2年後の天正16年に完成しました。

本丸と二ノ丸を合わせた面積は現在の大阪城とほぼ同じで約70万㎡です。その壮大さは人々を驚嘆させ、イエズス会司祭のルイス・フロイスは年報で「安土山で見られた信長の建造物(安土城)を数倍上

回る」という評判を書き留めています。

そして6年後の文禄3年(1594)からは、城の外郭を築造する工事にかかり「惣構え」を整備しました。大坂城は北で淀川と旧大和川が合流し、西は旧大和川にそそぐ猫間川が流れており、東は東横堀川をほって三面を水で囲みました。残った南

方には空堀をうがりました。空堀は幅20m以上、深さ11m以上の規模だったことが発掘調査で判明しています。

こうして難攻不落の大坂城は完成しましたが、秀吉は死の直前の慶長3年(1598)にさらに工事を命じ、城内の町人たちを立ち退かせ、大名たちが妻子と住むための屋敷を造営させたようです。これらは妻子を人質にする戦略で、子の秀頼をまもるための措置でした。しかし、秀吉の死後、家康は関ヶ原の合戦で勝利し実権を握った後、京都方広寺の鐘銘事件を契機に、慶長19年(1614)10月に大軍を率いて大坂城を取り囲みます。

真田丸と大坂冬の陣

大坂冬の陣は11月中旬から12月下旬まで、大坂城に立てこもった10万の豊臣軍を20万の徳川軍が包囲した戦いです。ほとんどが籠城

戦で大きな戦いは三つありましたが、その一つ真田丸の戦いは12月4日未明から翌5日に終わりました。

真田丸というのは豊臣方の真田幸村が南惣構えの東南の門から空堀の南に築いた出丸です。「大坂冬の陣配陣図」に張り出しているのが真田丸です。

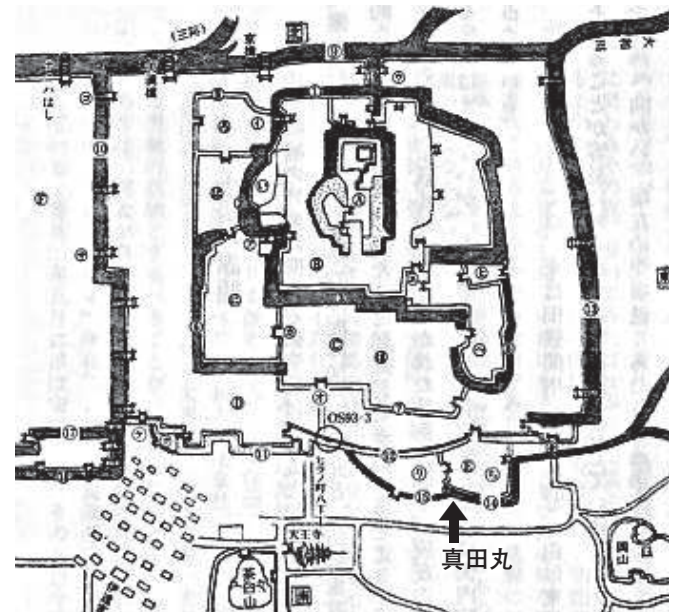
大坂の陣に豊臣方として籠城した兵士の記録である『山口休庵咄』には「真田左衛門(幸村)は、玉造口御門の南に一段高き畑がある所に

三方から堀をほり、堀の周りに柵を三重に付け、所々に矢倉を立て、柵の間の腕木に武者走りという通路を設け、父子の人数六千人で籠った。これを真田の出城と言った(要旨)」と書かれています。

真田丸を攻めたのは徳川方の前田利常隊・松平忠直隊・井伊直孝隊などでした。実際の戦いは、イエズス会日本年報に「内府(家康)は夜が明けると大軍を城壁の一部に近づかせ：兵士は大胆にも全員が堀の中に入り込



豊臣大坂城平面図 (跡部先生の著書「豊臣秀吉と大坂城」(吉川弘文館)より)



「大坂冬の陣配陣図」(『徳川武鑑』所収)



「大坂三郷町絵図(トレース)」(1694〜1699)

んだ。：敵方(真田)は兵たちが完全に堀の中に入り込んだ時を見計らって一斉にマスケット銃や火縄銃を嵐のように撃ち込み、：徳川方は不意を突かれて驚き総崩れになって散り散りに堀を抜け出そうとしたが、城方はさらに槍などを投げつけて脅えきった敵兵の大部分を殺害した(要否目)と戦況を描いています。真田出丸の戦いは大坂冬の陣図屏風にも描かれています。堀の横木に板を渡した通路は

文献と一致しています。また、堀の内側は二段構造に描かれています。鹿角の兜の武者もいますので幸村を描いたのかも知れません。こうして真田勢は徳川方を撃退したのです。

真田丸の場所は何処か

真田丸の実際の場所は何処だったのでしょうか。積山洋氏は「豊臣氏大坂城惣構南面堀の復元」(『大坂城と城下町』)で、「堀の中央は上町台地の稜線つまり最高所で接続してお

り、そこから東と西に高度を下げて台地を横切っている。台地の東斜面には開析谷が入り組んでいるので、堀はその自然地形をうまく利用した」として、東側の空堀は自然の谷筋をたどって造っていることを述べ、「堀が文禄末年ごろに完成した後、残されたウィークポイント」は堀の南に位置する小丘陵であった。堀は自然地形を利用したがゆえに、そのすぐ外側の高所を残してしま

うこととなった。冬の陣に際して、豊臣方がそこに真田出丸を築いたのは当然のことであった」と真田丸を造る戦略的意味を述べています。

真田丸は空堀の南にある小丘陵に作られました。現在の小丘陵は、東端に三光神社のある宰相山があり連続して心眼寺などの寺院、その横の大阪明星学園へと続いています。江戸前期(1694〜1699年刊行)の『大坂三郷町絵図』(トレース)には、

丘陵の谷道の右側に寺院群があり、左は真田出丸跡と書かれています。出丸跡の北に斜めに走っている道が、惣構え空堀の跡です。

『大阪府の地名』(平凡社)には「真田丸跡：珠庵東北、現明星学園敷地付近にあった」と書かれており、『大坂三郷町絵図』に描かれている心眼寺など現存する寺院は大阪明星学園と道をへだてています

ので、この敷地周辺が真田丸の跡とされています。最近、千田嘉博氏が、『月刊歴史街道』平成26年12月号で「真田丸の規模は従来の説(200m四方)よりも広く、巨大な要塞だった」という説を発表しています。具体的に地域を特定していませんが、南にひろがる真田山公園一帯を含めているようです。しかし、根拠として浅野文庫「撰津真田丸」の図には出丸の中の道に「此道二丁程(約200m)有」と書かれており、むしろ従来の説を補強するものといえます。

真田丸で撃退された徳川方は惣構えの外から大砲攻撃を本格化さ

せ、砲弾が本丸に打ち込まれるに至り、ついに和議が結ばれました。和議では南物構えの空堀と二ノ丸堀の埋め立てが決まり実施されました。真田丸の空堀もこのとき埋められたと思われま

大坂夏の陣と幸村

外堀を埋めた徳川方は、翌慶長20年(1614)5月に再び大阪に軍を向け「大坂夏の陣」が起りました。5月7日、真田幸村は南方の茶臼山に布陣し、徳川方に総攻撃をかけました。イエズス会の年報には「真田はもう一人の司令官である毛利の豊前(吉政)とともに戦っていたが、述べ難いほどの力を発揮し、三、四度敵に激しく襲いかかった。そのため(迎え撃っていた)將軍は次第に戦場を譲りながら退却の用意を始めた。というのも、將軍はそれまでに彼の多くが隊を組んで逃げて行くのを見ていたからであった。それどころか次のような事実があったと言われている。すなわち、もしも最後に秀頼側の攻撃が幾分か

鈍ったのを見て、戦の女神が風向きを一瞬にして変えたと感じていなければ、内府(家康)は絶望して日本人の習慣に従って腹を切っていたというのである(1615、1616年度)という程の猛攻撃でした。

『薩藩日記』の6月11日付の書状に、「五月七日に御所様(家康)の御陣へ真田左衛門しかかり候て、御陣衆追いちらし討捕り申し候。御陣衆(のうち)三里ほどずつ逃げ候衆は、皆々いきのこられ候。三度めにさなだもうち死にて候。真田日本の兵、いにしえよりの物語にもこれ無き由、惣別(すべて)これのみ申す事に候」と真田の奮戦を称賛しています。幸村が討ち死にした5月7日に大坂城も落城し、翌8日に秀頼・淀殿が自害し豊臣家は滅亡しました。ここに徳川家康の覇権が確立したのです。

(本稿は跡部先生の講演内容を編集部でまとめました。文責/石沢)

学校を開き、人を育てる

学校長 内堀繁利



昨年9月5日には、同窓会担当の中村教諭と二人で定期総会にお邪魔し、硬式野球について、昭和32年と、その30年後の昭和62年に続き、さらに30年後の平成29年には、3回目の応援に甲子園球場にきたいと申し上げました。

長野県に「ふるさと納税」を納めていたとき、その際、使用目的として「上田高校の教育の充実」とお書きいただいたと、皆さんの納税が母校の教育のために使われるのでご協力をお願いしたい、とも申し上げました。繰り返しになりますが、ぜひお願いいたします。

さて、真田信繁(幸村)を主人公にした来年度のNHK大河ドラマ『真田丸』ですが、すでに真田での口ケも行われていますし、関連してNHKからいくつか

取材がありました。本校や在校生が出来ますので、注目していただきたいと思えます。

会報の前号に書いたように、本年度から上田高校は、文部科学省のSGH(スーパー・グローバル・ハイスクール)の指定を受け、課題解決力やコミュニケーション力を持った、グローバル・リーダーの育成を目指して日々様々な取組を行っています。

Hの様子については今号の別の箇所で見られるので、ここでは「開かれた学校づくり」に関連した話を挙げておきます。

前号でもお知らせしましたが、SGHをはじめ、本校の日々の活動については、学校ホームページで頻りに情報を更新しています。そのホームページに、「校長ブログ」と称して校長の視点から思うところを書いていきますので、両方ともご覧いただきたいと思えます。加えて、生徒の意欲を喚起する目的で、今年度初めに校長室を生徒



校長室入口の校長掲示板

様々な活動を通して、自分の頭で考え、判断できる、主体性や探究心を持った上田高校生を育て、「すごい奴が現れたがどこの出身だ?」と訊かれるような人物が各分野・各世代に出現してくれることを期待しています。

今後上田高校のご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。

後輩の頼もしさを感じました

— 社会講座講師をして — 75期 内海 裕一



社会講座は生徒達に今後の進路や将来の就職に向けた指針を与えるべく様々な分野からの卒業生を講師として毎年開催されている。

本年度の1学年の社会講座は14の人文、法学、経営学から理学、工学、医学、マスコミに至る幅広い分野の卒業生からなる講師で同時に行われた。

先ず日置勇二同窓

ミクロのものづくりの世界を紹介

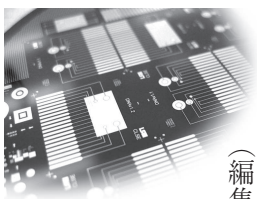
小職は工学のジャンルで講演を行なった。講演内容は『ミクロのものづくりの世界から』と題し、現在大学で進めているシンクロトロン放射光を用いて作製するマイクログラフ(マイクログラフ)の説明を切り口として、科学技術で国を支えている日本が自動車や精密機械、携帯端末や電化製品のみならず、これらを構成する部品材料に至るまでのトータルなもののづくりを戦略的に進めていることを紹介した。

鋭い質問も受ける

広範でかなり専門的な内容も含んだ講義であったが、生徒は終始真摯な姿勢で理解しようと努めてくれたことは先輩として嬉しい限りであった。新たに発見した粉体輸送の現象には鋭い質問があつてこちらが説明に戸惑つた場面もあり、非常に良い勉強の機会ともなつた。また講演の教室は小職のホーム教室(8組戸田忠雄先生)だったこともあり、懐かしさと後進の頼もしさを同時に感じた有意義な講座であつた。

※他に、関西同窓会の推薦で、名古屋大学の松原隆彦さん(83期)が3年連続で参加されました。

(編集部)



特に、手のひらより小さいサイズのチップ上にμm(マイクログラム)サイズの流体回路を巡らせた「Lab-on-a-chip」を開発した例を紹介した。これはチップ上の実験室と言われ、早期診断や創薬の分野でイノベーションを起こす技術として世界中で最も盛んに開発が行われているマイ

1 学年夏季フィールドワークの取組

1 年 S G H 担当 宮下 美和

スーパーグローバルハイスクール(SGH)は、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを育成するため、グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、様々な国際舞台で活躍できる人材の育成を目標に平成26年度より行われている文部科学省の事業で、全国で112校がSGHの指定を受けている。

バス8台で県内各地へ『フィールドワークの概要』

上田高校は昨年度のSGHアンソニエイト校としての経験を、本年度はスーパーグローバルハイスクールに指定され、「長寿県NAGANOから世界のいのち・健康を支えるグローバルリーダーの育成」をテーマに4月より本格的な活動を始めています。1学年のSGHプログラムの上半期の大きな柱が、学年全員で取り組んだ県内フィールドワークである。これは、以下の8コースから各自が1つを選び、夏休み中の1日、バスでの研修に出かけるものである。本年度は、8月3日(月)に1年生全員320名余が8台のバスに分乗

し、県内各地に出かけて研修を行った。研修にあたっては、事前学習を行い、研修が深まるように準備を行った。研修の内容についてもただの見学、講義ではなく、実地体験や関係者との交流などを組み入れたものとした。いづれの訪問先でもご多忙の中、快くご協力をいただき、大変有意義な研修とすることができた。

『事前・事後研修』

一人1テーマでリサーチ
事前には、研修場所に関係したひとり1テーマが与えられた。生徒たちはSGH特設科目「グローバルスタディーズ(GSI)」や放課後などの時間を使ってリサーチを行ない、冊子にまとめた。

1人1テーマの例

【Aコース】長野県の親水事業、長野県の火山災害の概要と被害。



Aコース水生昆虫の観察

内容 各コースの内容は以下の通りである。

コース・テーマ	サブテーマ	訪問先	指導者	実施内容
A 環境防災	いのち・健康を信州の自然環境と災害を通じて考える。	白馬村 神城地震被災地	信州大学全学教育機構 大塚勉教授	活断層見学、原因と特色、 保存と防災
		安曇野市 せせらぎ館 周辺の犀川水域	信州大学理学部 東城幸治准教授	水生昆虫を採取して生態系について研修
B 国際理解	いのち・健康を信州の異文化と観光を通して考える。	長野市 清泉女学院大学	人間学部 室井美稚子教授	講演・ワークショップ 「英語で世界とつながろう」
		山ノ内町 地獄谷野猿公園	まちノバイト社 笠原崇広氏	インバウンドビジネス、 外国人観光客インタビュー
C 農業、食品	いのち・健康を信州の食と農業を通じて考える。	伊那市 信州大学農学部	竹田謙一准教授	講義、農場牧場見学、野生生物との共存について研修
		伊那市 伊那食品工業	丸山勝治取締役	企業理念と時代にあわせた変化について研修
D ビジネス、都市	いのち・健康を信州の地域活性化ビジネスを通じて考える。	上田市 信州大学 繊維学部浅間エクステンションセンター	信州大学SVBL 中西広允准教授	社会人基礎力について グループワーク。 課題解決の方法
		小布施町 小布施町役場	市村良三小布施町長 宮崎貴司氏 大宮透氏	小布施の特色を活かした まちづくり政策
E 平和、国際協力	いのち・健康を信州の多文化共生を通じて考える。	駒ヶ根市 JICA青年 海外協力隊訓練所	JICA職員 茂木優子氏 ラヴェンドラ・サヤミ氏	ネパール語研修、施設見学、 訓練生徒の交流
		駒ヶ根市 長野県 看護大学看護学部	宮越幸代准教授	サモア留学生と文化交流。 日本の伝統文化発表
F 子ども、スポーツ	いのち・健康を信州の地域教育を通じて考える。	青木村 青木村立 青木小学校・児童センター	高田玲子氏 沓掛英明氏 吉沢修一氏	小学生交流。タブレット 端末授業体験
		長野市 長野県庁	次世代サポート課 竹内延彦氏	未来の長野県教育
		長野市 南長野運動公園	長野バルセイロFC 中澤悟氏	サッカーを通じた地域づくり
G 保健、医療	いのち・健康を信州の保健活動を通じて考える。	佐久市 佐久総合病院	伊沢敏統院長 加藤琢真医師	地域医療システム「農民と 共に」の理念
		川上村 ヘルシーパークかわかみ	保健福祉医療複合施設 由井和也医師 保健福祉課 新海貴課長	講演、デイサービスセンター にて交流、室内楽、吹奏楽、 弓道の各班による発表
H 生命、情報	いのち・健康を信州の科学技術を通じて考える。	上田市 信州大学 先進植物工場	信州大学繊維学部 下坂誠教授	環境制御による先進的 植物工場見学
		上田市 菅平高原 筑波大学菅平高原 実験センター	町田龍一郎教授	菅平高原を歩き、生態系と 森林遷移の研修

【Cコース】信州の生活を支える食生活、長寿をもたらし栄養指導。生徒は、写真やイラスト、図表なども用いながら、わかりやすくまとめる工夫をこらし、大変よい資料となった。また、事後研修としては、研修内容をパワー

ポイントでまとめ、クラス内でコースごとに成果を発表した。世界から日本を見てみたい【Bコース】「Bコース」・貧困が理由で死んでしまう子どもたちの力になりたいたいと思った。



Bコースインタビュー

世界の貧しい人を支援する進路を見つけた。日本人が外国人に求められていることは日本人にとって当たり前のことかもしれない。世界から日本を見てみたい。(次ページへ続く)

(前ページから続き)

【Cコース】ニホンジカの食害に驚く

・今まで農学部というのは農業を学ぶところだと思っていたが、実際は自然や生命のことも幅広いことを学べると知った。講義の中で一番印象に残ったのはニホンジカの話だ。シカによって山の緑がどんどん減っていたり、何十年後にはこの近くの山の木はなくなってしまうと聞いて驚いた。このシカを捕まえるための視覚刺激というものに興味を持った。

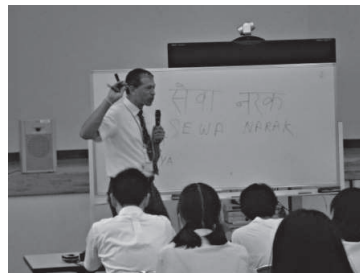


Cコース牧場見学

【Eコース】

・サヤミ先生のネパール語の授業では、今の自分の語学の学習にもつなげられそうなお話を教えてもらうことができた。また訓練生との交流を通じて、JICAの存在がより身近

に感じられるようになってきたと思う。



Eコースネパール語体験

終了後のアンケート

でもいづれのコースも9割近い生徒が満足したと答えており、刺激をうける一日となったことがうかがえる。1年生は今回の経験をより深めて今年度下半期の課題研究、来年度2年次での1泊2日の県外フィールドワーク、4泊5日の台湾研修旅行や本格的な課題研究につなげることが期待される。

また、このフィールドワークは、今後も関係各所のご協力を得て1年生が継続して実施してゆく予定である。



いつも会報送っていたいただきありがとうございます。興味深く読ませていただきました。さて、私の近況ですが、納豆の製造販売をタイのバンコクで始めました。納豆作りという最後の趣味が、皆に背中を押され日系スーパーで販売することになり、楽しみながらやっております。アジアでは国産輸入冷凍納豆が、日本の3倍の価格で販売されています。

私の納豆の名前は「社長さんの納豆」です。このネーミングは、社長さんでも値が高く手が出ない日本の輸入冷凍納豆、社長さんは本業があるから納豆ではもうからない、社長さん自ら試作を続けたこだわりの糸引・味、から名付けました。

ところがこの納豆が人気を呼び、本業(電子部品商社)は今年創立20周年ですが、今までに新聞社なんて取材に来たこともありません。ところが納豆は本格発売前から、日本の業界紙新聞に載る、Yahoo!国際版に載る、日本語FMラジオでディスクジョッキーとの対談に出るなど、大変注目を浴びています。当地の新聞に私の納豆が紹介されていますので、お読みください。これは日系スーパーで

68期 小松 進

タイで生まれた「社長さんの納豆」

近況報告



発売開始前の記事ですが、現在は発売3ヶ月でトップブランドの売れ行きとなっております。

納豆好き社長
タイで「社長さんの納豆」
製造開始

アジア8ヶ国で電子部品の販売会社を展開するGSKエレクトロニクス・グループ傘下の食品会社「小松フーズ」が現在、原料にタイ産大豆を使用した納豆「社長さんの納豆」の生産に乗り出し、バンコク市内の日系レストランを中心に販売している。

同グループ社長で納豆好きを自認する小松進社長が納豆作りを始めたのが2013年7月。それまでは近所の日系スーパーで納豆を購入していたが、その店舗が移転したために、「意を決して自ら納豆作りを始めた」(小松さん)という。

当初は「失敗ばかりで納得のいく仕上がりではなかった」ものの、試行錯誤を

繰り返した結果、現在は味が良く糸引きも良い満足な仕上がり。GSKの創業20年を節目に「何か社会に貢献したい」という思いから事業化。専用の工場を設け、冷凍されていない納豆を日本並みの価格で提供する体制を整える。

特徴は社長こだわりの製法のほか、実用新案登録済みの納豆専用トレーを採用していること。ふたは接着剤が不要で、フィルムも使用しない環境に優しいパッケージにした。原料は今後も地産地消を維持していくとしており、チェンマイの契約農場での大豆栽培も計画中。6月にはバンコク市内の主要日系スーパーでの販売開始も予定する。

「社長といえども日本の3倍もする輸入納豆は購入をためらう。おいしい納豆を手頃な価格で提供することで皆に喜んでいただきたい。利益は考えない」と小松社長。「日本人だけでなくタイの方にも納豆のおいしさを知ってほしいし、本業で進出している拠点を足掛かりに将来は各地で生産し、納豆文化をアジア各地に広めたい」と熱く語っている。

バンコク経済新聞電子版
(2015年3月4日)

一昨年(2013)の4月、現在の大阪大学特任教授の他に、フィンランド学士院からFidipro (Finland Distinguished Professor)

という肩書をいただいた。このため、阪大と併任の形でフィンランドのトゥルク大学に年に3ヶ月ぐらい滞在し、大学院生の指導に関わるとともに一部の講義を担当している。

私が居る研究室は、免疫の研究でその名が知られる女性研究者のSirpa Jalkanen 教授が主宰する。彼女と共同研究を行っていたことがきっかけとなって、5年間の契約で彼女の研究室に招かれることになった。幸い、フィンランド学士院からは私の給料と研究員のための人件費と研究費が出る。そこで、昨年の7月から阪大の私の研究室で博士号の仕事をしながらフィンランドのラボに招き、新しい研究が少しずつ進みだしている。

一番の違いは仕事時間、ここ約2年半の間、

日本とフィンランドの間を足繁く往復する間に、日本の大学との違いに何となく気付き始めている。ここにそれを書いてみる。

まず、一番の違いは仕事時間である。彼らは早い人は朝7時過ぎには仕事を始めている。その代わり帰るのも早く、早い人は4時、遅い人でも5時過ぎには帰宅をする。一日8時間以上仕事をする人が殆ど居ない。ところが、彼らはこの仕事時間であるにもかかわらず、日本人に劣らないだけの成果をあげる。研究面では、しっかりと良い論文を書いて、論文の数も日本人研究者とあまり変わらない。どうしてそれが出来るのかというと、自宅には然るべき仕事スペースとネット環境が整備されている。大学では必要な実験だけを行い、出たデータはすぐに解析をして、論文の原稿を書き始める。そして余暇を見つけ、しっかりと休む。すべてに無駄がなく、学ぶところが多い。

フィンランドの大学から 64期 宮坂昌之

質素な身なり よく勉強する学生

フィンランドの学生は、日本と比べてずっとよく勉強をする。フィンランドでは、義務教育(9年間)および、その後の高校、大学までもが授業料は無料である。日本とは異なり、本当に勉強をしたい人が大学や大学院に進学する。従って、彼らが真面目に勉強するのは当然なのかもしれない。学生は男女を問わず質素な身なりで、日本のようにブランド物のバッグや装身具を身につける学生はまず見かけることはない。多くの学生がバイトをして、生活のすべてが親がかりという人は少ない。

フィンランドは欧州連合(EU)の一員であり、テレビでは英語の番組が普通に流れ、小学校では3年生ぐらいから英語を習い始める街では多くの人が英語を話す。大学では英語の講義も多くあり、私も講義をする時は英語である。学生にとって英語が自由に使えることが普通である。

効率と正確さを好み シャイなフィンランド人

日本と良く似ているのは、フィンランド人も効率と正確さを好むことである。仕事の手早く、出来ることはその場で済ませてしまう。時間は正確で、公共の乗り物は本当に時間通りに動いている。人々はきれいな好きで、街並みはこざれいである。治安も非常に良い。

フィンランド人は一般にシャイである。朴訥という感じの人が多く、無駄なことは話さない。冗談のような話だが、一説にはフィンランド人は直接顔を合わせて話をするのがあまり得意でないので、



トゥルクの町のシンボルである大聖堂。13世紀終わり頃に建てられ、その後何度も改修を重ねて今の姿となる。

余計に携帯電話の普及が早まったという(フィンランドにはかつて携帯電話の分野で世界首位のシェアを持っていたIT企業ノキアがあり、実際はそのために世界で最も早く携帯電話が普及した)。国民性はおだやかで、とても親切である。何か困っているとそれとなく声をかけてくれ、優しく教えてくれる。とても住みやすい国である。以上、フィンランドについての雑感を述べさせていただいた。(2015年11月記)



大坂の陣四〇〇年・真田丸関連史跡をめぐる

家族会員 松本萌花

真田一族の大ファンの私

私は、幸村公の兄・信之公が好きです。そのため母が、その信之公ゆかりの上田藩の屋敷門が残る上田高校の出身ということをし、羨ましく思っておりました。私自身は、奈良県在住、中学高校は大阪大学は京都という関西生まれの関西育ち。今回の文化交流会に参加させていただいたのは、信州が、上田が、大好きで、真田一族の大ファンだからです。

小さい頃から、母や母方の親戚に「六文銭」や「赤備え」、真田昌幸・幸村父子の名前を聞いて知ってはいました。しかし、まだ歴史にあまり興味がありません。子供のころは、野沢菜やおやき、お蕎麦といった、『おじいちゃんおばあちゃんの家に行けば食べられる』食べ物や気候風土が好きで、長野県を好きになったように思います。

実際に歴史的な価値を理解して、上田城跡公園や上田高校にある屋敷門を見に、ひとりで上田市を訪れるようになったのは最近で、きっかけは池波正太郎

先生の「真田太平記」でした。池波先生の描く真田幸村公の最期は、もちろん安居神社。私の家からは電車で1時間もかかずに行ける天王寺区は、真田ゆかりの地、真田ゆかりの寺社のあるところ。これは是非訪れなければ！と意気込んでいたところに、母の元へ文化交流会の知らせが届き、母も私と同様、以前から真田ゆかりの地めぐりをしたいと話していましたので、母娘で念願が叶いました。

大阪城を知る

天候に恵まれた10月31日当日、大阪城大手門前に18名が集合。目印はもちろん、六文銭の赤い旗です。ボランティアガイドさんに案内していただき城内へ。私自身は実際に訪れるのは四度目ですが、それはまだ上田の歴史を知る前のこと。ガイドさんの説明を伺いながら歩く大阪城内は、新鮮でした。

解説がなければ知らずに見過ごしてしまう石垣の年代の違い、刻印、門の柱の珍しい継ぎ方、多聞櫓、千両櫓



大阪城で

の名前の由来、有名な蛸石をはじめとする巨石の数々、その大きな石をどうやって運んだか切ったりやっつけて運んだなど興味深いお話をたくさんお聞きすることができました。夏の陣で戦死した真田大助の祠が残る山里丸は見たことができず残念でした。

ボランティアガイドさんとお別れして、展示資料館にもなっている城内へ。まずは天守閣廻縁の展望台から眺望を楽しみました。見学時間30分では展示物を見るには時間が足りず、そこはまたぜひ後日ゆっくり回ろうと思いつつ天守下の集合場所へ。大阪城・上田城

友好城郭提携の記念碑記念近くで集合写真を撮りました。

天守の前では、幸村公がモチーフのキャラクターがいたり、六文銭を施したグッズが売られて、イベントが催されていました。大河ドラマが始まったら上田も大阪も大いに賑わうことでしょう。

真田丸跡を歩く

大阪城からタクシーで環状線の玉造駅前に移動。近くの「すし半」で昼食をとりました。ここ一帯は大阪城の南惣構えの空堀があった所です。午後からは天王寺区のボランティアガイドさんを迎えて、天王寺区の実地案内の地を案内していただきました。

像と、抜け穴跡を写真に収め、真田出丸の名残を感じるような高低差のある道を歩き、次に訪れたのは心眼寺。真田出丸があったとされる土地にあるこのお寺は、大坂の陣の後、真田幸村・大助親子の冥福を願って建てられたそうです。

真田出丸推定地を感慨深く見ながら南下。大坂冬の陣・夏の陣での激戦地とされるどんだろ大師辺りを歩き、幸村公が戦勝を祈願した言い伝えがある鎌八幡近くから再びタクシーに乗りました。

(次ページへ続く)



三光神社で



幸村公の銅像と筆者

(前ページから続き)
真田幸村終焉の地
 いよいよ真田幸村終焉の地と言われる安居神社です。境内に建てられた銅像と石碑の前には、六文銭という名前のお酒もお供えしてありました。お参りをし、銅像を撫で、真田松を見て、幸村公の一生を想い、感無量。その後は、少し離れたところにある、一心寺という、骨佛で有名な大きなお寺へ。私の父方の曾祖父のお骨もこちらのお寺で骨佛として祀られているのですが、今回参加された方の中にもご親族が同じ仏像になっている方がおられ、ご縁を感じました。一心寺は茶臼山のすぐ近くにあり、大坂夏の陣で幸村が追い詰めた家康が命拾いましたと言われる霧降の

松や、討ち死にした本多忠朝のお墓もありました。最後に、冬の陣では家康が、夏の陣では幸村が陣を張った茶臼山にて、ボランティアガイドさんにお礼を言ってお別れし、駅までの途中、これまた真田関連のイベントが開催され賑わいを見せる天王寺公園にて解散となりました。大河ドラマ・真田丸に先駆け、大阪にある真田幸村公ゆかりの地を満喫でき、母娘と皆さまと大変有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

近鉄奈良駅前「風神」にて懇親会



67期有志16名により、「奈良の旅」が11月14日(16日)に開催されました。47年前の修学旅行(1968年)をなぞり、東大寺、興福寺、猿沢の池ならまち、法隆寺、薬師寺、唐招提寺、明日香などを巡りました。初日は雨模様でしたが、大仏殿から奈良公園を横切り興福寺辺りを散策。二日目、法隆

67期が奈良で同期会

「修学旅行をなぞる」

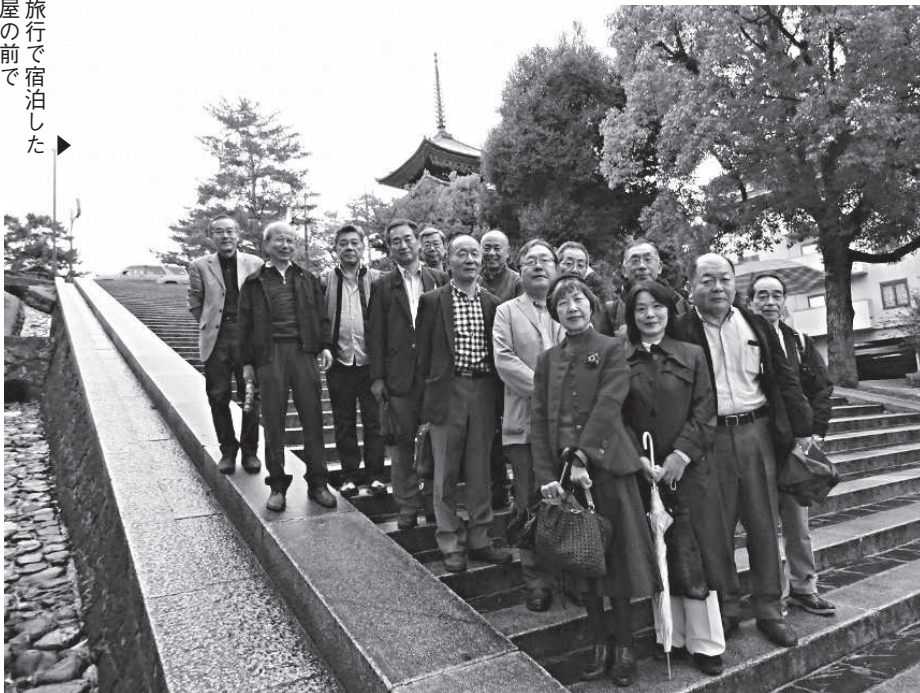
寺はガイドさんの説明で国宝の数々を堪能。旧北畠邸の布穀齋で昼食。三日目は明日香にて秋晴れの中、久しぶり自転車に乗り、高松塚古墳、亀石、石舞台、橋寺、甘樫の丘などを颯爽と駆け巡り、柿の葉寿司に舌鼓。

古き日本の歴史と自然の調和を体感した二泊三日でした。両日も夜は宴会で論談にふけりました。駆け足での奈良観光でしたが、一同、高校の昔に戻り、懇親を深めることができ、再開を約し散会しました。次回の幹事による企画を待望しています。(清水記)

参加者は次の通り (敬称略)
 上田より、飯島康典、金井俊樹、沓掛重憲、佐藤友秋、中村和俊、中村教司。
 東京より、石田清典、小林猛、小松宗剛、坂口公一、

藤巻(旧姓古市)敬子、水島(旧姓唐沢)良子、関西からは、金澤信男、久保亜弓、清水正博、松生文子。

修学旅行で宿泊した吉田屋の前で、興福寺をバックに



生物無機化学の研究と教育を楽しむ

79期 林 高史

このたびは、本誌に寄稿する機会を与えていただき、大変光栄に存じます。まだ関西同窓会にデビューしておりませんが、少し自己紹介も含めて近況を記します。



講演する林高史さん

京都に住み始める

実は、関西に住むことになった契機は、高校2年の時、関西への修学旅行の際に班行動で京都タワーに昇ったことかもしれません。その前か後にたまたま東京タワーにも昇る機会もあり、両者を比較して、やはり間近に山が見える安堵感に惹かれて18歳の時から京都に住み始めることになりました。途中、九州大学に7年半勤務したと、サンディエゴとフラインツエに留学したことを除けば、淀川水系で長らく暮らしていることになり

化学の研究と教育

大学の学部時代から化学を専攻し、現在は大阪大学で研究室をもち、元気の良い多くの学生さんに囲まれて化学の研究と教育に勤んでおります。ただ、一言で化学と言いましても、実は分野は多岐にわたりますが、私自身は大筋では有機合成化学から生物化学へ興味を次第にシフトし、今は、生物無機化学という学際領域の研究を主に実施しております。

豊かな自然の想い出

ところで先月、信州大学繊維学部で、太郎山を窓越しに眺めながら、自分の研究成果を講演する機会がありました。子供の頃、毎日眺めていた懐かしい風景に接しながら、現在の大阪での仕事を語ることになり、実に不思議な心境でした。でも、幼少期にその太郎山山麓や千曲川で豊かな自然に触れた体験が、現在、自然との共存や自然に学ぶものづくりを意識した仕事につながっているような気がしています。幸いなことにまだ定年は遙か彼方に感じておりますので、かつて自分を育んでくれた信州の自然を思い、高校時代に受けた薫陶の試百難の精神を意識しながら、今後も新しいサイエンスへの挑戦を模索したいと考えております。

蚕神像

上田駅、お城口改札前の広場に「蚕神像(さんしんぞう)」があります。故中村直人画伯から贈られ、上田を訪れた観光客をお迎えしています。その存在はあまり知られていません。



「蚕神像(さんしんぞう)」

この上田駅は、横浜へ向け日本の近代化への大きな原動力となった生糸の輸出拠点でした。「上田糸」として上田・小県から世界に送り出されてきました。「蚕神像」は、手に繭を捧げる女神の像。この地域の発展を支えた「お蚕様」を如何に大事にしてきたかを静かに語りかけています。

常田館製糸場

上田駅お城口を出て、駅前通りを右に歩いて数分、左側に大きな建物・常田館製糸場が現われます。現存する最大級の製糸場は、世界遺産の富岡製糸場ですが、製糸場としては、もう一つ、笠原工業株式会社敷地内にある常田館製糸場があります。「旧常田館製糸場施設」として重要文化財になっています。木造の五階



常田館製糸場

「蚕都 上田」

69期 市川 泉 (『古城の門』編集長)

信濃路 一点描



上田蚕種

ど唯一と云ってよい現役の蚕種製造会社です。事務棟は大正6年築の洋風建築で蚕糸業が全盛であった時代の面影をよく残しています。経済産業省の近代化産業遺産にも選定されています。

繭倉庫です。最上階にまで上がることで、繭倉庫として使うため巨大な建物を支える支柱がなく床板には隙間がありません。静かです。

蚕蛾を交尾させ、大きな蚕を作り出しこの蚕を養蚕で育て繭を取り出します。上田蚕種では現在もお蚕種製造が行われています。蚕種は冷蔵し、孵化する時期を遅らせることにより春・夏・秋と季節を超えて蚕を孵化させています。生糸・製糸により、この上田地区が経済的に恵まれ、教育等の「上田」の豊かさを残してくれました。